

これからのまちづくりに必要なものは？

— 「結みのお」 設立15周年に想う —

牧野 直子

北急延伸と人々の流れ

箕面市の長年の都市計画だった北大阪急行の延伸工事がこの度 3 月末に完成し、地下鉄は北の「箕面萱野」から南の「なかもず」までがつながりました。しかし、都市計画を作った頃と今の状況は大きく変わってきています。

今はコロナ禍によって人の動きが変わりました。都心に通勤する人が減り、働き方が変化してきています。団塊の世代が退職し、地域で暮らす人が増えています。箕面市内で移動するための公共交通体系も北急延伸を機に、大きく変わりました。あらたな交通のルートや時刻表に戸惑っている住民、特に高齢者も多いようです。最近ではほとんど家にこもっておられるお一人暮らしの高齢者が増えています。これに拍車がかからないか心配です。



箕面萱野駅とステーション棟 新たな箕面の顔になる？

社会の変化と新しい価値

またスマホというあらたな道具の普及によって、特に若者は新聞やテレビではなく、スマホで自ら検索して多くの情報を得るようになり、情報のとり方やコミュニケーションの方法も大きく変わりました。

都市計画を作った頃から半世紀。効率を最優先し、無駄を切り捨て、生産力を上げることが何よりの課題

でしたが、もう大量生産、大量消費の時代は終わりました。

このような社会状況の変化によって、以前の価値からあらたな価値を模索するときです。今の自分にできることを考えましょう。

これからの時代に求められるものは？

私が箕面市議を引退し、「結みのお」を立ち上げて15年が経ちました。

「結みのお」の会員も高齢化し、私自身も年々記憶力や体力が落ちていく中で「できることは何か？」悩みはつきません。

先日、新しくオープンした北急の箕面萱野駅の商業施設に行ってみました。若い人たちが溢れていました。彼らは今の社会状況をどう思っているのか聞いてみたいと強く思いました。昨年「結みのお」の活動目標は「世代を超えてつながろう」でしたが、世代を超えてのつながりを深めることは容易ではありませんでした。

地域では「子ども食堂」や「地域カフェ」などのあらたなコミュニケーションの場が次々と生まれています。地域の中でのつながりを深めることも大切です。

「結みのお」の今年度の活動目標は「ゆるやかに自由につながろう」です。「おしゃべりカフェ」や「結サロン」で情報を共有したり、一緒に街歩きを楽しむ機会を持ったりして、会員どうしのコミュニケーションの場を作っていきたいと思います。その中で、世代を超えた繋がりや地域の中での繋がりを作りだす道が見つかるかもしれません。変化する社会の中であらたな価値を発見し、誰もが生き生き暮らせるために、是非あなたのお知恵とお力をお貸しいただけますようお願いいたします。